

# ISO 13709 2<sup>nd</sup> edition (API 610 11<sup>th</sup>)

## 6. 1 (P.1) 適用範囲をより明確にしました

### 改正内容;

API610を適用したポンプは、信頼性は高いのですが、手間のかかる高コストなポンプになります。そこで、この規格を適用する場合の目安を新規に追加しました。追加した項目は2つあり、次に示すように、一つはポンプの仕様、もう一つはISO規格との兼ね合いです。

### 1. ポンプの仕様

次のいずれか一つでも超える場合に適用すると、コストに見合う効果が期待できます。

- (1) 吐出し圧力      19 bar
- (2) 吸込圧力        5 bar
- (3) 取扱液温        150
- (4) 回転速度        3600 min<sup>-1</sup>
- (5) 全揚程           120 m
- (6) 羽根車直径(片持ポンプに限り) 330 mm

逆に言うと、上記の6つの条件が全て規定値以下の場合、API610を適用しても、コストが高くなり(価格が高くなる)、利点はあまりありません。ただし、私見ですが、低温の場合はAPI610を適用したほうが無難だと思います。

### 2. ISO規格との兼ね合い

API610は、規格名にあるように、石油、石油化学および液化ガスに適用します。これら以外に使われるポンプで、高信頼性の必要なポンプは、ISO 9905 (クラス 1、一番厳しいクラス)が参考になると明記しました。

